

令和元年度病虫害発生予報第4号

令和元年 7月2日
愛知 県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は多い	± +
	紋枯病	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は多い 7月の気温は平年並	± + ±
	トビイロウンカ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	セジロウンカ	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない	-
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	カメムシ類	やや多い	県全域	畦畔における6月の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	+ ±
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±

・防除対策

〔いもち病（葉いもち）〕

本日発表の「いもち病（葉いもち）情報第2号」を参照してください。

〔紋枯病〕

紋枯病を対象とした育苗箱施薬を実施していないほ場で発生を確認したら、病斑が上位葉に伸展するまえに、オリブライト1キロ粒剤、バリダシン液剤5、モンカット粒剤、モンガリット粒剤などで防除しましょう。

〔カメムシ類〕

除草が不十分な一部のほ場の畦畔で、カスミカメ類が多く捕獲されています。日頃から畦畔の雑草管理を行い、特に出穂2～3週間前には丁寧に除草しましょう。発生状況等詳細は本日発表の「斑点米カメムシ類情報第1号」を参照してください。

・留意事項

セジロウンカの発生量は本田でやや少なく、予察灯では誘殺されていません。また、トビロウンカは本田でも予察灯でも確認されていません。発生状況等詳細は本日発表の「ウンカ情報第1号」を参照してください。

5月下旬に豊田市、安城市、西尾市など17地点85のムギほ場で捕獲したヒメトビウンカの縞葉枯病保毒虫率は7.4%で、平成24年から30年の過去7年間のデータでは、29年（9.4%）、28年（7.8%）に次いで高くなっています。6月下旬の調査で、発病株は確認されていませんが、ほ場をよく観察し、縞葉枯病の症状を認めた場合は、周囲への拡大を防ぐため、本病を媒介するヒメトビウンカの防除を行いましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は多い	＋ ＋
	黒点病	やや多い	県全域	5月の枯枝の孢子形成量は平年並 7月の降水量は多い	± ＋
	ミカンハダニ	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の気温は平年並	＋ ±
	チャノキイロアザミウマ	多い	県全域	6月のイヌマキにおける発生量は多い 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	＋ ±
ナシ	黒星病	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は多い	± ＋
	うどんこ病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	ナシヒメシクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 6月のモモの被害新梢率は平年並	± ±
	ハダニ類	少ない	県全域	6月の発生量は少ない 7月の気温は平年並	－ ±
モモ	せん孔細菌病	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は多い	± ＋
	灰星病	やや多い	県全域	4月の発病花率は平年並 7月の降水量は多い	± ＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
モモ	ナシヒメシクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はおおむね平年並 6月の発生量は平年並	± ±
	ハダニ類	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の気温は平年並	± ±
ブドウ	べと病	多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は多い	＋ ＋
	黒とう病	多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は多い	＋ ＋
	チャノキイロアザミウマ	やや多い	県全域	6月のイヌマキにおける発生量はやや多い 粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	＋ ＋
カキ	角斑落葉病 円星落葉病	やや多い	県全域	前年秋の発生量は平年並 7月の降水量は多い	± ＋
	うどんこ病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	コナカイガラムシ類	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない	－
果樹共通	カメムシ類	平年並	県全域	予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±

・防除対策

〔ウンシュウミカン・そうか病〕

発病した葉や果実は取り除き、園外へ持ち出して処分しましょう。ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤やファンタジスタ顆粒水和剤などで防除しましょう。

〔ウンシュウミカン・黒点病〕

ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤などで防除しましょう。散布間隔は、累積降雨量200mmから250mmに達したとき、または散布後30日を目安としましょう。

〔ウンシュウミカン・ミカンハダニ〕

5月31日発表の「令和元年度発生予察注意報第2号」を参照してください。

〔ウンシュウミカン、ブドウ・チャノキイロアザミウマ〕

本種は成虫発生ピークが防除適期です。有効積算温度を利用した成虫発生ピーク予測日等は、本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第3号」を参照してください。

〔ナシ・黒星病〕

発病した葉や果実は取り除き、園外へ持ち出して処分しましょう。アミスター10フロアブルやフルーツセイバーなどで防除しましょう。

〔モモ・せん孔細菌病〕

4月25日発表の「平成31年度発生予察注意報第1号」を参照してください。農薬を使用して防除する場合は、収穫前日数や周辺への飛散に十分注意しましょう。

〔モモ・灰星病〕

インダーフロアブルやベルコートフロアブルなどで防除しましょう。

〔ブドウ・べと病〕

本日発表の「令和元年度病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。

〔ブドウ・黒とう病〕

発病部位は取り除き、園外へ持ち出して処分しましょう。オンリーワンフロアブルやフルーツセイバーなどで防除しましょう。

〔カキ・角斑落葉病、円星落葉病〕

発生を確認したほ場や昨年発生したほ場ではオンリーワンフロアブルやストロビードライフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

果樹の病害の多くは、降雨により感染が拡大します。6月27日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ないと予想されているため、病害発生に好適な条件が続きます。降雨の合間を逃さず、防除を徹底しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キク (露地)	白さび病	平年並	平坦部	6月の発生量はやや少ない 7月の降水量は多い	－ ＋
	白さび病	平年並	山間部	6月の発生量は平年並 7月の降水量は多い	± ＋
	アブラムシ類	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない 黄色水盤、黄色粘着トラップに おける誘殺数は平年並	－ ±
	ハダニ類	やや少ない	県全域	6月の発生量は少ない 7月の気温は平年並	－ ±
	アザミウマ類	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	オオタバコガ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	±

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/yougo.html>)、予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報 (名古屋地方気象台6月27日発表)

〈予報のポイント〉

前線や湿った空気の影響を受けやすく、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ないでしょう。

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の降水量は、多い確率50%です。日照時間は、少ない確率50%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並の確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：30% 平年並：40% 高い：30%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：30% 多い：50%

〔日照時間〕 少ない：50% 平年並：30% 多い：20%